

里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.61		ブナ北限の里 「黒松内」	生物地理区分		その他	
			地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	北海道	地形 条件	1.山地	2.山麓部	○ 3.丘陵・台地
				4.低地	5.その他	
	市町村	黒松内町	環境 要素	1.二次林	○ 2.草地	○ 3.水田
				○ 4.畑	○ 5.小川・水路	6.ため池
集落名称等		字黒松内ほか(全町)		○ 7.池沼・湿地	8.社寺林	○ 9.人工林
				10.その他		

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの ○:それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
鳥獣特別保護地区、保安林、国の天然記念物、北海道遺産	特定植物群落 朝日新聞社・(財)森林文化協会「にほんの里 100 選」(H21)、 町内全域を景観計画区域として指定
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
平成 16 年、北海道遺産に選定された「北限のブナ林」。 歌オブナ林をはじめ白井川、添別両ブナ林。 豊かな森が育む清流「朱太川」・ 約 2 万 4 千年前からの堆積物が堆積している「歌才湿原」。	観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や 撮影の来訪者が多い、自然公園や景観保全のための地域指 定がある、景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっ ている

	
撮影時期：H20 年 6 月 写真の説明：天然記念物 歌オブナ林(森林) 黒松内市街地から 2km の場所に広がる約 92ha のブナ原生林。 昭和 3 年、自生北限のブナ林として天然記念物に指定。 以後 2 回の伐採の危機があったが、ブナの学術的な価値の保存を訴えた大学教授と地域住民の嘆願により難を逃れ、現在に至っている。	撮影時期：H20 年 7 月 写真の説明：農村特有の牧歌風景(草地・森林) 農村特有の田園風景、牧歌的風景は、農村の「生業」がもたらすものであり、食料に負けず劣らず農業が生み出す重要な産物である。 ゆったりとした農村風景とブナ林を中心とした自然風景が、黒松内の里山の空間を築いている。 写真中心の木はブナ。放牧地でもシンボルとして保存されている事例。

NO.61	ブナ北限の里「黒松内」		取組主体	○	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	北海道		○	2.団体・企業・学校等
	市町村	黒松内町		○	3.行政による支援施策の活用
	集落名称	字黒松内ほか(全町)			4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組主体	主な主体の名称		黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会		
	その他の主体の名称		黒松内町、町内各行政区、黒松内ぶなの森自然学校〔NPO 法人ねおす〕、白井川地区農村資源保全隊、フットパスボランティア		
目的 ●：主 ○：その他	●	1.農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化（伝統的なものも含む）			
		対象・取組内容	白井川地区での良好な農村環境の形成や環境を重視した農業生産のため、農地・水・環境など里山の良好な保全と質的向上を目的とした共同の取組。 ・農地、農道、用排水路、ため池等の機能診断・点検 ・農地、農道、用排水路、ため池等の整備（草刈り、泥上げ、砂利補充、ごみ拾いなど） ・花壇整備などによる農村環境向上活動		
		支援措置	事業実施のための黒松内町負担金 798 千円（平成 21 年度）		
	○	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
		自然観察会	*	森へ行こう、花ごよみ調査、ブナの種子落下調査など	
		環境教育・学習活動	*	ふるさと学習や総合的学習、自然環境講座、学校教育のための窓口対応など	
		里地里山体験・環境保全	*	黒松内岳ブナ林再生事業〔ブナの苗木育成〕、イエティくらぶ	
		農林業体験活動	*	わんぱく探検団〔田植え〕、ふれあいファーム、ブナ里ツーリズム体験メニュー	
		エコツアー	*	ブナウォッチング、フットパスなど	
		その他			
	○	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
		取組内容	昭和 3 年、歌オブナ林は北限のブナ自生地として、国の天然記念物に指定され、町の宝物として大切に守り育てている。 そして、宝物である歌オブナ林を町のシンボルとして、体験・滞在型のまちづくりを進めている。		
○	5.地域の良好な景観の保全・修復				
	取組内容	本町は、平成 2 年から全町的に景観修景に取組み、平成 20 年 3 月に景観法で定める景観行政団体となり、町内全域を景観計画区域として指定し、これまで以上に町の景観を守り、育てている。			
連携・協働による取組内容・役割分担等		黒松内岳における笹地でのブナ林再生に取組む「黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会」は、NPO 法人ねおすや地元行政等の多様な団体で構成される。 地元企業から苗畑用地の無償提供による協力を受け、また、北海道森林管理局後志（しりべし）森林管理署と西の沢国有林における森林整備協定を締結するなど、ブナの苗木づくり、森づくりに向けた活動を実践している。 また、フットパスボランティアは白井川地区農村資源保全隊に加わり、農村環境の整備を行っている。			
取組の特徴や強調したい点		本町は、豊かな自然環境の中にわずかな面積で市街地といくつかの集落が形成されており、町全体が大きな里地里山と捉えることができる。 そして農村特有の田園風景、牧歌的風景は、農村の「生業」がもたらすものであり、食糧に負けず劣らず農業が生み出す重要な産物となっている。 黒松内町では、自然と共生した 20 年間の取組がこれらを磨き上げ、一層魅力ある農村の里山空間を築いてきた。 今後も地域住民、行政、そして町外にいる黒松内ファンと助け合いながら、良好な農村環境の保全・再生に取組んでいくことより、黒松内町しかありえない黒松内オリジナルの自然にやさしく・人にやすらぎの田舎（まち）を次代に継承していく。			

取組の概要	農村の生業継続、ブナ林再生などブナ北限の里づくり	課題グループ
事例の特性	特徴ある地域の特性に適合した農林業	●農林業 ●仕組
取組の中で他の地域の参考となる点	北限のブナ自生地であることと農村特有の風景を活かした体験・滞在型まちづくり活動の一環として、ササ地でのブナ林再生のプロジェクトを立ち上げ、地元企業や森林管理局の協力のもと、ブナの苗木づくり、森づくりに進めている。	